

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	第11回 川西市参画と協働のまちづくり推進会議		
事務局 (担当課)	地域分権推進課		
開催日時	平成24年7月5日(木) 午後6時から午後8時		
開催場所	庁議室		
出席者	委員	岩崎会長、土肥副会長、磯部委員、荻田委員、荻本委員、岸本委員、佐伯委員、高木委員	
	その他	地域・相談課長 市民活動センター・男女共同参画センター指定管理者(特活)市民事務局かわにし	
	事務局	総合政策部長、政策推進室長、地域分権推進課長、同課主査、同課主任、同課主事	
傍聴の可否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	(1) 開会 (2) 委員の就任について (3) 副会長の選出について (4) 基本計画の策定について (5) 閉会		
会議結果	別紙議事録のとおり		

<p>会長</p>	<p>さて、定刻になりましたので、「第 11 回川西市参画と協働のまちづくり推進会議」を開会させていただきます。</p> <p>本日の予定ですが、次第の 2、委員の就任につきまして、前回をもちまして退任された高畑副会長の後任として、川西市コミュニティ協議会連合会理事から岸本文彦さんが、新しく委員に就任されることになりましたので、自己紹介をお願いします。</p>
<p>岸本委員</p>	<p>ご紹介いただきました、川西小学校区コミュニティ推進協議会会長の岸本です。よろしくお願いします。私は、ちょうど定年になった時に自治会長が回ってきました、その時に初めて自治会活動に入りましたが、それまではほとんど近所の人も知りませんでした。確かに、私はここで生まれ育ちましたが、会社勤めの時は転勤であちこち転々とし、定年前になって川西市に戻ってきました。その時にちょうど、自治会長が回ってきたので、何か恩返ししなければならぬと思い自治会活動に入ったわけです。その時、川西小学校区コミュニティ推進協議会の設置が検討されており、2年くらいかかったのですが、前任の高畑さんと一緒に携わっておりました。</p> <p>私は、どちらかといえば討議は苦手な方であり意見も言えないと思いますが、3年ほど自治会長を引き受け、コミュニティ組織ができたときから副会長を引き受け、その後、会長を引き受けるなど、現場にずっと関わってきた経験はあります。何もわからないですが、皆さんについていけるよう勉強して頑張りたいと思いますので、よろしくお願いします。</p>
<p>会長</p>	<p>こちらこそよろしくお願いします。この会議で市外の者は相川委員と私ですが、二人の役割というのは、コミュニティや自治会をはじめとした様々な団体が今まで色々な活動されてこれ、そういう中でこれから急速に高齢化し、人口が減っていく川西市が阪神間の激しい都市競争に勝ち残っていくための川西市に即した自治の仕組みを繋いでいくことだと考えており、この参画と協働のまちづくり推進会議の確たる趣旨だと思っています。</p> <p>現場感覚と今まで活動されてきて困ったこと、こういうことがあればいいなということなど、経験に裏付けされた発言をお願いできればと思います。どうぞよろしくお願いします。</p> <p>では、私の方から各委員をご紹介します。</p> <p style="text-align: center;">（各委員の紹介）</p> <p>続きまして、次第の 3 です。前回で副会長が退任されましたので、本日、新しく副会長を選出していただかなくてはなりません。</p> <p>参画と協働のまちづくり推進条例施行規則によると、「会長及び副会長は、委員の互選によりこれを定める。」と規定されておりますが、選出について、ご意見を</p>

	伺いたいと思います。いかがでしょうか。
委員	事務局に一任というかたちでどうでしょうか。
会長	委員から事務局に一任という声でしたが、それでよろしいでしょうか。事務局にお伺いいたしますが、いかがでしょうか。
	(異議なしの声)
事務局	では、事務局のほうからご提案させていただきます。副会長に土肥委員を提案させていただきたいと思います。
会長	土肥委員にをという提案がございましたけれど、ご承認いただけますでしょうか。
各委員	(拍手)
会長	ありがとうございます。皆様からご承認していただきましたので、土肥委員、お席を移動いただけますでしょうか。 では、一言ご挨拶をよろしくお願いします。
委員	これから会長をサポートさせていただきたいと思いますので、よろしく願います。
会長	それでは、次第4に入ります。前回の内容について、今日の議論の参考になるように振り返りをさせていただきます。 まず、中間報告以降の推進会議のスケジュールとしましては、9月の最終提言に地域分権制度の方向性や骨格を盛り込むことを検討しようとしています。ただ、地域分権制度の具体的な内容については、来年1月以降、専門部会を設置し、そこで議論しますので、この推進会議では、地域分権制度の大枠、まさに市民の皆さんからこういう地域分権制度がいいなという項目を、まず挙げていただきたいということです。 もう1点は、中間提言書に記載した解決策案を優先順位付けしなければならないという議論をしました。前回の議論では、市民の意識改革、職員の意識改革がとても重要だということ、あるいはこの推進会議の設置根拠になっている「参画と協働のまちづくり推進条例」の認知度がまだまだ低いということ、これを知らせていくことが重要ではないかということ。また、行政内部で地域情報の収集共有を行ない、情報をまとめて地域に届ける仕組みが必要であること。縦割りではなく横断的な組

織を作らなければならないこと。

さらに、市と市民の間だけではなくて、市民相互の地域での情報共有が重要ではないか。例えば、高齢化率、一人暮らしのお年寄りの数や今後の見込み、あるいは交通事故がよく起こっている場所など、一定の地域で行政が持っている様々な情報、これは市長部局だけの情報ではなくて交通事故であれば警察が持っている情報など、そういう1つの地域に関わる情報を出来るだけまとめ、市民の皆さんに見やすく提供できるのが地域カルテだろうと思います。

市民の皆さんの立場としては、今後の地域の将来のためにこんな情報が必要であるという地域カルテを作っていくのが当面の目標にもなるだろうし、様々なデータを蓄積していく中で地域の人材の発掘にも繋がるのではないかというご意見をいただきました。

また、市民の意識づけが自治会の加入率の向上にも繋がるのではないかというご意見もありました。

ただ、優先順位は要らないのではないかと、全て並行して行う方が良いのではないかという意見もありましたが、手の付け易いところと付けにくいところがある。情報共有の仕組みについては、重要度も高いし比較的手も付けやすいので、優先順位は上がっていくことになる。そのような話ができました。市職員の意識改革については、地域活動への参加が意識高揚に繋がりますとのご意見をいただきました。

一方、5年後の川西の参画と協働の理想の姿、あるいは地域の姿を答申に盛り込むかどうかということを議論させていただきました。

現在、総合計画が同時進行で検討されていますが、その総合計画では地域ごとに10年後のありたい姿を示した地域別構想が位置づけられることになるので、改めて推進会議で議論して最終答申に盛り込む必要はないのではないかと。もしも、5年後の姿を示すとしても個別具体的なものではなくて、繋がりのあり方レベルで良いのではないかと結論だったと認識しています。

そういう意味では、中間提言書の優先順位の中で付け足すべきものとしては、繋がりのあり方、今日、地域分権制度について議論していただく中で私はこの繋がりのあり方は、かなり議論が深まると期待をしています。

それから、地域分権を議論していく際の「地域」という言葉の範囲については、当然小学校区を越えて取り組むべき仕事もありますが、川西市の場合にはコミュニティ組織が古くから出ていますので、小学校区の広がりくらいということを前回各委員の話の中で意志統一できたのではないかと。これから、「地域」「地域分権」といったときの「地域」という言葉は小学校区くらいの地域をイメージして、そして、繋がりのあり方、地域分権については今までかなり議論していますから、それを少し深めていく。そして、深めた意見を基に地域分権についての骨格を中間提言書にプラスし、9月には最終提言という形で市長に報告させていただく。そして、それらを受けて総合計画の実現に向けての地域分権制度の制度設計を年明け早々くらいから専門部会でまとめ、その報告を踏まえながら来年4月には難しいかもし

事務局	<p>れませんが、モデル地区として具体的に地域分権制度を動かしていこうという事が前回のお話でした。</p> <p>では、本日の議論ですが、さきほどの振り返りでも話しましたが、ここで議論を始めた時は市全体の参画と協働の話ということではありましたが、地域分権に絡む話もたくさん出ていましたので、今回は、これまで出されたご意見を項目ごとに分類したものを資料としてまとめて頂きました。今回は、それをさらに再整理し論点1から8にまとめた資料を、事前に事務局より送付いただいています。それについて簡単に事務局の方からご説明いただいて、例えば「視点として抜けているのではないか」、あるいは「こういう表現をもっと直した方がいい」「もっと深掘りした方がいい」というようなご意見があれば是非お願いしたいと思います。事務局から資料の説明をお願いします。</p> <p>説明をさせていただきます。前回の第10回推進会議資料をお手元に並べていただくと分かり易いと思います。全体資料で を2つ付けていまして、その2つ目の「これまでの議論の中から地域分権制度に関わることを抜き出し、項目ごとに分類しました」という事を書いていたのですが、そちらを今回再度整理し、今日の第11回参画と協働のまちづくり推進会議資料ということで、論点1～8にまとめています。</p> <p>地域分権制度につきましては、市民の皆様や庁内の意見などを聞きながら、これからまだまだ時間をかけて検討しなければならないと思っています。最終答申では、基本計画に盛り込むべき、地域分権制度の骨格部分やその方向性について、ご意見をいただきたいと考えています。今回の資料は、中間答申の最後に例えば一章を設け、「地域分権制度の検討に向けて」などという形で追加する事を想定した書きぶりとしています。</p> <p>資料をご覧くださいと、「地域分権制度検討にあたっての論点について」というタイトルで、「今後、地域分権制度の検討を進めるにあたり、その基本的な方向性などについては、下記の論点1から論点8に留意してください」ということで書いています。</p> <p>まず論点1「地域分権制度検討にあたっての基本的姿勢」については、全市一律にこだわらず、それぞれの地域にあったメニューを許容する姿勢が重要になるということ。それから、いろいろな主体が一緒になって考えていきますので地域が5年後、10年後にどうあるべきなのかということを見据えて議論を進めていく必要があるということです。この場合の「地域」とは、先ほど会長がおっしゃったように概ね小学校区単位を意味しています。</p> <p>論点2「地域自治における組織・担い手」については、色々な組織が市内に沢山ありますが、その成り立ちや構成、各種団体の関係性などは地域によって様々であることが今までの議論や行政の報告などで見えてきたと思います。そういった中で、自治会加入率の低下に歯止めがかからないというような課題が見えてきていま</p>
-----	---

す。今後、地域自治システムを考えるうえで、これまでの既存の活動のよい部分を十分に生かして、自治会、コミュニティ推進協議会、地区福祉委員会などの関係性を改めて見直し、地域のそれぞれの実情にあった多様なパターンを想定することが重要です。また、地域においては地縁系の団体と事業者やNPOなど色々な主体による協働のまちづくりのスタイルというものが、なかなか連携が取れていない状況にあるというお話があったと思います。今後、地域自治を進めるにあたり、事業者やNPOなども地域の一員だという意識を地域住民全員がさらに強め、ともに地域課題の解決にあたること。そして、特に事業者やNPOならではのネットワーク力も発揮することが求められるということが書いてあります。

論点3「地域分権制度の受け皿」については、現在13の地域コミュニティ組織があり、色々な活動が展開されています。振り返ってみれば、昭和50年代、当初示されたコミュニティ行政を推進するにあつたての基本的な考え方や、目指すべき方向性は今でも有効だと思っています。各地域におけるコミュニティ組織は、地域において色々な事情がありますが、その目的を果たし得る組織として機能しているのであれば、今の地域分権の受け皿組織として役割を十分に担っていただけるものと考えています。

ただ、昨年度から地域を回っていると、地域によっては組織運営等に様々な課題を抱えている実態もありますので、地域の実情に応じた受け皿づくりを進めることが必要です。また、その受け皿組織を誰がどのように認定するのか、どのような権限をお渡しするのかについては、その基本的な部分は行政が示すことが必要だということです。

論点4「合意形成と責任」については、地域自治の仕組みの中で一番重要な部分になってきますが、合意形成の仕組みが大事だろうと考えられます。公金を使って事業をする場合、地域の中で合意が図られて誰もが納得するような公共的な目的がなければ駄目です。こういった合意形成の仕組みはしっかりと条例などで担保する必要があるでしょう。また、地域住民の合意のもとで行った事業については、その分の責任は自分たちで負わなければならないことも認識することが必要であるというお話でした。

論点5「地域情報の共有」については、地域自治、分権を進めるうえでは地域情報の共有が重要になってきます。地域ごとの情報の共有の手段としては、先ほど会長からご説明ありましたが、色々な地域資源を検討し、評価しながら地域住民皆さまで「地域カルテ」を作成していくことが有効であると考えます。また、その地域カルテを参考にしながら「この地域をこのようにしたい」という思いを地域住民の皆さまで共有して、そのありたい姿に向かうために地域課題を解決していく話し合いの場である「ラウンドテーブル」が必要になってくるでしょう。ラウンドテーブルの参加者についてはそれぞれの地域の実情が違いますので、地域の皆さまで決めることが重要ですが、できるだけ幅広い人が参加できるような場づくりが非常に大切になってくるというお話でした。

論点6「地域分権にかかる権限や財源」については、ここの部分のご意見がたくさん出ていたのですが、これまでの補助金の多くは市役所の各課から縦割りで支出する形になっており、地域の住民にとっては事務作業が煩雑になっています。また、類似した仕事を複数の部署からの補助金で実施しなければならないこともあり地域住民の皆さまにとっては使いづらくて、非効率なものになっているという現状がありました。今後、地域分権を進めるにあたっては、財源と権限が必要になってきますが、これらを受け取る地域においては、「地域のありたい姿の実現に向けてこういう事をやっていきたい」というような、地域住民の合意を前提とした計画などを策定しその計画に基づいてお金を支出するイメージで捉える必要があります。

「お金がまずあって、それに合わせて事業をする」のではなく「課題解決のために、まず何をしなければならないか」というビジョンがあって、そこにお金を費やしていく。そのような流れが大事ではないかという話がありました。こういう補助金を整理するにあたっては、まずは1つの小学校区に行政のどの部門からどんなお金が出ているかというものを一覧表にして、これらの関係性や地域で行われていることの把握が必要であるという話がありました。また、地域に移譲された財源は繰越や人件費の充当が可能かどうか。そういうことは地域にとって非常に大きな問題であって、地域自治を進めるうえでどういった使い方が良いのかという資金運用の在り方などについても、十分に市民の皆さまと意見交換をしなければなりません。

論点7「地域担当職員制度」については、地域と行政を結ぶ地域担当職員の在り方について、今年度、行政の方でも検討を進めていきますが、これは単に地域課題を行政に伝えるだけでなく、地域で課題を解決するためのラウンドテーブルを開催したり、その議論を集約したり、それに対する行政の支援について課題提起できるような役割を果たすべきだという意見をいただきました。この点につきましては、これから検討を進めていきますが、今後、市民の皆さまや職員の意見を十分に聞きながら制度の構築に努めてください。また、地域担当職員が出来たときには、行政内部で地域担当職員同士の情報共有を図り、横断的にそれらを活用する仕組みの検討も必要になっていくことも庁内において十分に調整してくださいとの事でした。

論点8「地域自治における活動拠点」については、現在、活動されている団体の中には活動拠点が確保できていない地域があります。活動の事務局として使用できるような場所も必要となりますが、その管理や運営も含め、地域の实情に応じてどのような拠点が自分たちで地域を担うために必要なのかということを十分に地域で議論していただいて、地域住民の合意を得て選択する必要があると考えます。その際には、新たに施設を整備するのではなく、用途は異なっても機能が果たせるような施設が存在するならば、その有効活用を図る必要があると考えます。

以上、今までの議論の中から言葉を拾いながら、論点を8点に整理させていただき文章をまとめました。「この点が抜けている」「ここをもう少し強調した方が良い」など、ご意見を頂きたいのでよろしくをお願いします。

会長	<p>事務局からの説明でしたが、論点として8つほど前回の資料の中から再整理をして提示していただいたわけですが、この論点の8つにこだわらず、どのようなことでも結構なので、地域分権制度に期待することも含めて何か意見がありますか。同制度については、専門部会で具体的に詰めて検討していくわけですが、その時にきちんと検討しておくべきこともあればおっしゃってください。</p>
委員	<p>この8つの論点については、全く異存はありませんし、非常に立派なまとめ方をされています。ただ、問題はこれをどのように実現するのかということです。</p> <p>例えば、論点6では、地域に移譲された財源の問題が挙げられます。私たちのまちでいいますと、会費が財源の主体です。その財源を無駄使いしないように知恵を絞りながら活動しているわけです。盆踊りなどの行事は手作りで行います。年寄りばかりですが、みんなが集まり檣をたてて、設営して色々な店を出すのも手作りで。</p> <p>ところが、隣のまちに行きますと、それを一括業者に丸投げしています。そうすると、1つの行事で30万40万のお金がかかる。それぞれの自治会がやっているうちは、それでいいです。ところが、市から地域に財源が移譲されると、今まで通り丸投げでどんどん業者に使うことを許していいのか。それでは、何のための財源か。そこをすっきりしておかないと大変な事になるのではないですか。「いただいたし、ありがたいし、これを業者にやらそう」という事ではいけないと思います。</p> <p>自分で出来ることは自分で行き、少ない財源を有効に使う自助努力があって、お金の支援が有効に機能する。これは論点6だけでなく、全てに当てはまりますし、どの地域にもこのような実態があります。その地ならしをしておかないと、いくら良い政策を打ち出しても有効に働かない。</p>
会長	<p>ありがとうございます。おそらく、こういうことではないでしょうか。つまり、地域で計画を作って、その計画に基づいて実施していく。そこに色々な地域の住民たちが関わっていくことによって、その計画の正当性みたいなものが担保される。例えば、その計画の中にこの行事についてはみんなで手作りすると書いてあれば、多分手作りするし、こういう行事については専門業者に委託すると計画の中に書き込んでそれをみんなで承認すれば、そういうお金の使い方をするとみんなが了承したというような形で、地域ごとに新しい権限、財源を持つ組織が責任を負う仕組みを作っていくという事でしょう。そして、その地域の住民にはお金の使い途についてきっちりと説明責任を果たす。そんな仕組みを作っていきましょうという事になります。自由度も高いが、当然責任もきっちり負うということです。</p> <p>私が関わっている愛知県のことですが、地域の住民が説明責任を負わないといけないと条例に書こうとしています。助成金を受けたら説明責任を負わないといけな</p>

	<p>い。地域で何かするときにはプランを作り、実行したらそれをチェックして次のアクションに入れる。よく言われる PDCA のサイクル、これを地域でもできるだけ回そうとしている。特に名古屋の近くですから、トヨタ、デンソーの乾いた雑巾を絞るトヨタ式経営方式に慣れた企業のOBの人たちが多いと、すぐそのような話になります。これも、しんどいかなと思いますが、公金を使うということはそういうことなのだ、感銘を受けています。</p>
委員	<p>川西はコミュニティに対して97万円の補助金をいただいています、それは全て単価を出すという形になっていますので、今後地域へ移譲される補助金についても、おそらく単価を出します。住民が丸投げで一旦業者に頼んだとしても、それも全ての決算報告を出します。</p>
会長	<p>それは当然です。</p>
委員	<p>住民以外の人でも同じです。そういうことはありえないと思いますので。住民が良かったらというのはちょっと「おや」と思いますので。全て厳しいチェックを受けるものだと思います。</p>
会長	<p>それはそうです。</p>
委員	<p>大体同じ意見ですが、住民が納得すれば業者に丸投げでもいいし、確かにそうかもしれませんが、自分たちでやるということに意味があり、まちづくりの基本なのです。みんなで一緒にやることによって自治能力を高め、次の若い子どもにも自分たちがやっていることを見せる。どこの家庭でも一緒ですが、旦那が稼いできたお金を、業者丸抱えで仕事に出すことはありません。それを誰が教育するのですか。それは、やはりある程度行政が協力していただかないと。放っておいたら、絶対に怠ける方向に行くのですよ。そこを尻たたいて、自分たちでやらないとお金は出さないとすることが必要だと思います。</p>
委員	<p>現状として、私の地域では本当にお金がないものですから、全体行事をやる場合でも、今回なら夏祭り、体育祭合わせて足りない分は全部企業を回って協賛金をもらっています。そして、地域みんなで準備しますので、業者は使いません。</p> <p>ところが、まわりを見ましたら、私の地域が8月の最初に夏祭りを行なった後、1週間遅れで商店街が同じようにして行ないます。そうすると、商店街はものすごくお金があるものから豪華なものです。我々はお金がほとんどないですから、最低限でみんなが楽しめるように店も出します。でも、1週間後に商店街がお金をかけたものを行います。</p> <p>これが地域分権で一緒になるというケースを考えた場合に、どのようにやってい</p>

	<p>けば良いのか、ものすごく不安を感じます。これからの問題だと思います。</p>
会長	<p>多分、そういうことを地域ごとのラウンドテーブルで色々話し合っていくところから始めましょうということになるのでしょうか。</p>
委員	<p>本当に地域が企画を考えて行いました。しかし、同じようなものが市の主催でまた行われる。そして商工会でまた行われる。そういうふうに祭りすら重複するようなことが実際起こっています。ただ、ラウンドテーブルで本当にそういう人たちが一緒に話ができるのかなと心配です。重複しますから避けてくださいと何年も言っても全然動かないという経験が過去にあるので、ラウンドテーブルを実施したからといって、そんなにうまくいくと思わないです。そういう意味では地域分権が心配になります。</p>
会長	<p>重複の際に日程をずらす話もさることながら、じゃあ一緒にやるかという話にはならないですか。例えば、祭りだったら商店街と地域で一緒にやろうかという話というのは、またそれはそれで違うのですか。</p>
委員	<p>それは私が聞きたいです。</p>
委員	<p>一緒にやるということはなかなか難しいです。というのは、お金があるところは業者に頼んでやってしまう、ないところは自分たちの手作りでやってしまうという方向で進みますし、我々は純粹にみんなが楽しむことで取り組みます。地域分権制度では、これを一緒に考える方向になると受けとっていますが、ものすごく難しいと思います。</p>
委員	<p>必ずしも一緒にやる必要はないと思います。商工会は商工会の考え方、哲学、狙いを持ってやる。それぞれ方向性、中身が違うわけです。ただ、市民のため、みんなの自治が高まるように資金を効率的に使い、そのベクトルさえ合っていれば良いわけです。それぞれがそれなりの意味を持った行事を行うわけですから、違うものでなかったら駄目だと思います。</p>
委員	<p>まず、誰が全体トータルのところではリード役になるのかという事が、聞いていて気になります。各地域で足りないところ、補いたいところということで参画協働が進んでいくと思いますが、ただ、弱いところだけを補てんしているようでは駄目で、やっぱり川西全体のビジョンの中で、各地域が動かないといけないとは思っています。各地域対等に、商工会なら商工会、商店街なら商店街があると思いますけど、今、何が地域の主体になるかは決まっていないですから、それもあり得ると思います。</p>

	<p>我々、事業者からイベントなどを展開していますが、それはそれなりの、委員がおっしゃったようにコンセプトを持ってやっています。ですから、地域向けのいわゆる祭りとは違ったコンセプトが実際にはあったりしますが、その情報発信が行なっているつもりですが、うまく出来ていないのかなと。そういうふうに感じたりはしています。</p>
委員	<p>必ずしも一緒にすることはないのでは。</p>
会長	<p>選択肢としてはあっても。</p>
委員	<p>コンセプトが合致すれば、一緒に出来るものならば良いと、個人的にはそう思います。ただ、今の段階でしようと思うと、色々と事務手続き的なところでかなり難しい部分があるなど頭の中で出てきています。ベクトルが若干違うところがありますから、例えば、模擬店を1つするにしてもベクトルの向いている方向が変わっていると思うので、果たしてうまく調和するものなのかなとは思いますが。</p>
委員	<p>例えば、この前お祭りがありましたね。ただ、あの場合、商工会が独りよがり動いているところがあったのではないですか。例えば、夜、舞台上で色々やっていますね。そのときに売り上げの一部を割いて、500円でもいい、1,000円でもいい、それを券にして来た人に配ってあげる。その券で周りに有るたくさんの店で、食べたり飲んだりしてください。1,000円分持って行ったら1,000円でさようならという訳にはいかない。3,000円、4,000円使うことにもなるでしょう。今、川西の中は商工が沈滞して活気がなくて不景気、不景気で、店がばたばた倒れている。何十万、何百万という広告が入っている訳ですから、何故そういうチャンスをつかまえてその一部を金券に変えて楽しんでもらうような知恵を広く集めて、実施しないのか。せっかくのチャンスです。</p>
委員	<p>本題がずれているかもしれないです。具体的な事例の話をして良いのか分かりませんが、今おっしゃっているイベントというのは、今年で第6回になる「川西まつり」だと思います。これにつきましては、JAと商工会が市内の産業を市内外にPRしていこうということで5年前から始められたイベントです。</p> <p>おっしゃるように、それをやっていること自体は間違ってもいないし、ただ、それは確かに内輪でやっていることです。周辺の住民を巻き込んでいるかということ、あくまでも来場されるという意味では巻き込んでいるかもしれませんが、あとはフリーマーケットぐらいでしょうか。自己満足ということであればそうなのでしょう。ただ、還元するという意味では、色々な手作りのものを色々な形で還元していることも事実です。</p> <p>そこで、このイベントを市民との関わりのきっかけに使っていけないのかという</p>

	<p>ことで、昨年からは、新しい試みで前夜祭として「かわにし音灯り」を行いました。この主体は、市民活動をやってみようと思っっている物好きの集まりで始まった団体で、その中には事業者の方も一般の市民の方もおられます。どうやって声掛けしていったかということ、最近流行のツイッターやブログなどで市民の方に声をかけていって作り上げたイベントです。その中で色々な費用がかかりますが、それはすべて事業者の協賛金をいただいて完成させたのが前夜祭です。</p> <p>どう市民が関わられたかということ、まず、そのイベントを作っていく過程から市民の方にも入っていただき、パレット川西を借りて半年かけて企画して行きました。また、本番自体も市内の幼稚園や小学校の7割近くからの協力を得て、子どもたちが描いたキャンドルシェードの灯をともすことができましたのです。</p> <p>音楽ステージについては、良質の音楽を見せたいと思いましたので、市内にゆかりのあるプロのミュージシャンということで夜の部を行いました。若い子がコンセプトを理解しないままでやられると、1回目だしどうだろうということで、市内にゆかりのあるミュージシャンということで去年は夜の部を行いました。ただ、午前の部についてはアマチュアの方に出していただきました。ストリートミュージシャンのまち川西ということで売り出していますから。</p> <p>事業者の持っている色々な繋がりの中で、声をかけて手作りでやって行きました。事業者は常ににぎわいや集客やまちを高めていこうと考えていますから、そういう人間に声をかけて行きました。これは完成型でもないし、今後どうなるかわからないです。事業者でもやっている人はやっていますから、まだまだ始まったばかりなので、全てがうまくいってないですが、この会議で何かの結論が出たら我々のやっている活動はそういうものに当てはめていきたいなと思います。商工会も同じだと思います。</p>
委員	<p>よく分かりました。例えば、ステージで女性の有名な方が出てきました。私が最初その話を聞いたときにギャラはどれくらい出るのかという話をしました。私が言いたいのは、みんな仲間なので特別に来るからといって、きっちり払わないといけないのか。みんなのお祭りでしょう、一銭も要りませんからやりましょう、これが言えないかな。</p>
委員	<p>話が十分それていますね。</p>
委員	<p>川西まつりは、悪いけどJAと商工会だけの祭りじゃないと思います。私は、どちらかということ川西市と一緒にやっていると思っっているのです。</p>
会長	<p>川西まつりの話は全市の話でもあるだろうし、今ここで地域分権制度の中で議論していく地域の盆踊りなどとは、やや性格が異なるものでありますので。</p>

委員	地域だけではなくて、本当にこういう事業者がどうやって同じラウンドテーブルに来てもらうというのは非常に難しいことだと思います。
委員	いや、難しくないです。お互いにお互いの存在を理解してもらって、お互いを尊敬しあうことだと思います。だから、決して事業者みんなが体たらくではありませんから。発信の仕方が悪いだけだと思いますから、なんなりと使っていただけたらと思いますし、各地域自体もやはり民意をあげて、作り上げていく努力はしないとイケないですよ。今まで川西全体の市民が作り上げていく、創造することをしてきたかという、どうかなと思うので。この度の機会、皆さんが地域自治を与えられた中で自ら作っていかなくともいいかということ、初めて民度が上がっていくのではないのでしょうか。
委員	でも、地域は地域の人たちだけで、補助金をいただくだけで、自分たちの力で質素だけやっていきます。市の職員が来て手伝ってはくれません。そういう意味では民意の力だけで私たちはやっています。ですから、今の話ではちょっとひっかかる部分があります。民意がないみたいに思えます。私たちは私たちに、自分たちのある範疇だけで行なっている。
委員	だから、それはだめだとは言いません。それが間違っているとは思いません。
委員	これからの先は、地域分権の立場から見れば一緒にやればいい。
委員	それは決まっています。ある時は地域によるだろうし、やることにもよるだろうし、決して一緒にしないとイケないということではないです。
会長	それはそうです。ただ、色々な組み合わせがあるだろうし、ラウンドテーブルを開いていく時には、このラウンドテーブルはすごくオープンなものだろうと思います。参加したい事業者がいれば参加してもらい、あるいは声掛けしてできるだけ多くの人に参加してもらい、地域の課題をみんなで語り合う場をまず設定していくこと。そして、その中で例えば、お祭りをしようというときに、実は今、お祭りはこんな感じになっているけれども、協力し合えるなら協力する。あるいは2つやることに意味があれば、そうしましょうというような話し合いの機会を作っておくということが何よりも重要です。その結果、地域がある意味、お祭りが2つあることで盛り上がるのは全然構わないです。
委員	どこどこがつながるといことは今、一切何も決まっていないですから。
会長	その検討の場のきっかけを作ることが、分権制度として最初に必要なこと

	<p>かなと思います。そこでようやく、情報だって互いが発信していけるし、情報も共有されるし、そこが何よりも重要だと思います。そういう会議は、すごくオープンなもので、色々な人が参加して出入り自由なものが理想だと思います。ただ、そこで決まったことに権限と財源が付与されており、実施するとすれば、かなりきっちりとした説明責任を果たさなければならないです。</p>
<p>委員</p>	<p>各地域を知る努力をしないとだめだと思います。委員、おっしゃられましたけれど、我々がやっている活動をどこまで本当に膝付きわせてお話ししたことがあるのか、僕はどれだけ委員がどう活動されているかを知っているのか。ほとんど理解できていないので申し訳ないです。個別ばらばらではないですし、違う地域のことも見てほしいですね。地域別懇談会のまとめの冊子をいただきましたけれど、これを手にとった瞬間、自分の地域だけを見たとしたら残念だなと思う訳です。他の地域はどうなのかなと思ってほしいです。</p>
<p>会長</p>	<p>まず、自分の地域を見て、他を見るというのが重要ですよね。自分の地域だけを見るのではだめでしょうね。</p>
<p>委員</p>	<p>お互いに足りないところがあって、補完し合えるところがあると思います。</p>
<p>委員</p>	<p>おっしゃるとおりだけれども、私たちは、町の行事というのは所詮町の中しか見えていないし、町の中が満足すればそれでいいのだという考えがある。しかし、商工会は川西市全体の広い活動であるべきです。そうすると、商工会だけで知恵を出してもいけない。活動の幅が全市のものであれば、全市から知恵を出さなければならない。せっかくの機会ですから、ものすごいお金を使いますから。そのところを先ほどから言っています。</p>
<p>委員</p>	<p>話を変えて、論点7の地域担当職員制度についてですが、今回資料の文章だけではまだまだ議論が必要だと思います。行政の中はまだまだですけど、分かっている人は分かっているし、解ってない人は解っていないし、今後どうするのか、私は興味があります。</p>
<p>会長</p>	<p>これは、これから行政の内部でもぐっと詰めていかなければならないことだろうと思います。地域担当職員がどのような職責を担って、どういう役割を地域で果たすのか。そして、それはどういう位置付けで地域に入っていくのかということは、専門部会で具体的に検討しなければならないことだと思います。例えばですが、今、地域担当職員の方を地域に配置するとしたら皆さんはどういうことを期待されますか。単に、地域課題を行政に伝える、つまり、ここの道路を直して欲しいということを書いてもらうために来ている訳ではないことは、皆さん分かっておられると</p>

	<p>思います。そういう役割ではないとしたときに、担当職員にどんな役割を期待されますか。</p>
<p>委員</p>	<p>正直言うと浮かびません。いつも行政と仕事の意見などを聞いたりしますが、なかなかこの分権に関しては難しいです。行政の担当の方が難しいのではないかと思います。自分がどういうことをしたらいいのか描けるのかなと思います。地域と仲良くしてパイプ役という形だけならわかるかなと思いますが、多分、それ以上のステップを地域は望むと思うのですが、どういうことが一番良いのかお互いに具体的に言えないということがあります。でも、何かすごく良いものを望んでいるような気もするし。</p>
<p>会長</p>	<p>そのあたりは、社会福祉協議会さんとしていかがですか。かなり地域に入られますので。</p>
<p>委員</p>	<p>社会福祉協議会で地域を担当する職員は福祉委員会の役員会に毎回出ます。また、その中で、事業を企画する段階で福祉の専門職として関わっています。こういうものを企画の中に盛り込んだらどうかとか提案したり、様々な情報を提供することが大きな役割になっています。特に国や全社協が地域福祉のこれからの方向性も出してくるので、それを川西で、地域で、どういうふうに担えるかという方向性、指針といった部分を示させていただいて、支援もさせていただいています。</p> <p>そういうことも含めて、やはり1つは、地域担当職員が地域分権で地域の在り方がどうあるべきか、ということは職員として持っていたかないといけなかなと思います。ここに付け加えていただきたいのは、やはり、それだけ社協というのは地域に入っているの、地域担当職員と社協職員との連携、役割分担が大事になってきます。</p>
<p>委員</p>	<p>ただ、社協がおっしゃっていることに、地域は満足していないです。こういうふうに会議しましょう、ワークショップしましょうということは主導でやっていただいているが、結局、地域で何か不都合なことが起こったときに相談しますと、返ってくる言葉は「地域は地域で解決してください」という言葉です。決して中に入ってきてません。そのあたりが一番社協に対しての不満で、それがずっときているので、なぜなのかなと思います。とにかく、その言葉は委員から直接聞いたことがあるし、そのことがクリアになっていると思いますか。</p>
<p>委員</p>	<p>川西市もそうだと思いますけど、決して市の職員も夢描いてないことないですよ。夢描いていますし、こうしたいああしたいと色々な勉強されていると思います。その口封じを、川西市民はしてしまっているのです。自分の権利、こうしたいああしたいということばかり主張してしまいます。だけど、やるなら最後は、責任は自</p>

	<p>分で取ってくださいということだと思います。</p>
委員	<p>そう思うならば、そうでいいですけど。それを、どうのこうの言いようはありませんが。</p>
会長	<p>具体的な話は別として、ただ、権限と財源を持って計画に基づいて実行して、そしてその結果の責任というのもやっぱりこの地域で背負うしかないでしょう。</p>
委員	<p>地域が主体になるということが一番ですから、それは重みもあるということです。地域はそれを抱えてずっとやっているわけですから。今、ING でやっているわけですから。ただ、今までやってきたことと違う大きなことをやる訳ですから、それを地域担当職員というのは支えてもらわないと出来ないことです。地域はボランティアの素人、住民ですから。やはり、その支えをきちっとしていただくには、話し合いを詰めて、どこが問題だとかどういうことをしたいのかという職員の理想論を言うていただくでも構わないと思います。一緒にこういうことをしたい、こういう問題があることを相談したい、この課題に対し市の職員も一緒になって解決方法を見つけたい。それくらいの覚悟を持っていただかないと。あくまでも地域でとつぱねるなら、今までと一緒にだと思います。</p>
委員	<p>川小校区を見ますと、社協の職員は、非常に良く会議に出られていると思います。私はネットワーク会議に出席しますが、必ず職員の方が来られ、状況をよく聞いておられます。こちらの方からも言いたいことは言っている。そういうことで、非常にうまくいっている。</p> <p>地域のデザインひろばについても、高齢者を中心に各拠点で行なっており、非常に人気があるのです。だから、その件については非常に良いです。やっぱり相互間の意思疎通を十分にします。一方、コミュニティになれば、運営委員会を見ても市の職員の方はほとんど来られないです。そして、地域においてドラゴン公園の駐車場をオープンするというケースになれば、市から職員が来て説明をされます。その程度のやり取りしかありません。</p> <p>だから、それは我々の取り組みが悪いのかもしれませんが、常に役所に意見交換できていけば、市職員は地域をもっと把握できるかもしれません。今はどちらかというと、必要な時だけ出るという感じです。なかなか情報の公開はできていないと思います。我々も悪いと思いますけれど。</p>
会長	<p>今のお話はすごく重要で、多分、地域担当職員が最初にやらなければならないことは、先ほど出ていましたけれど、行政と市民の間の情報共有だろうと思います。そして、なおかつ市民同士の情報を共有するための触媒みたいな機能も果たす。そこから始まって、ラウンドテーブルを行なっていくのであれば、皆さんの意見を</p>

	<p>色々聞いて意見を引き出すファシリテートの役割を担う。ところが、次が難しいのですが、一方で市の職員ですから、ここで「川西はどのように考えているか」といった時には、実は市を代表してきている立場なので、そこはいつも非常に悩ましい。</p>
<p>委員</p>	<p>私は自治会長が長いので、今は、市の職員は社協の職員より支持できるし、膝を突き合わせて意見もお伺いしています。長年のお付き合いの中で地域担当職員にぴったりだという職員の方もいますが、こういう制度になれば、誰がというよりも職員全員が対象になり、いろいろ差があると思います。やはり、市の職員といっても突き詰めていけば人間と人間ですから、そこまでのレベルまで話し合えるかどうかです。そこまできたら市の職員であろうが住民であろうが分かりあえ、うまくいくと思います。どうしても、そこまでいくまでがお互い構えてしまうから時間がかかると思います。</p>
<p>委員</p>	<p>この制度はものすごくいい制度だと思います。うまく回れば立派な制度です。卑近な例でいいますと、自動車販売のメーカーが全国に販売店を敷くわけです。その地域ごとにメーカーから地区担当員が販売店へしょっちゅう来ている。そこで、販売店はこの商品はこのようにしないといけない、このような商品を出さないと負けるぞと積極的な意見を地区担当員へ言う。地区担当員も、そんなサービス工場の運営をしていたらお客が来ないぞ、もっとサービス工場をきれいにしてお客さん本位の対応をしないといけないと販売店へ教えるわけです。</p> <p>市が地域を指導するというのも、まさにこれと同じです。指導する役割というのは非常に大きいです。また、市の見えていないところを地域はつついていく、積極的な意味の制度です。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほど、社協職員は地域の課題には入っていないと発言がありました。何かの課題についてそれが出来ていない部分があるのかもしれませんが、当然地域の課題に対して福祉委員会と自治会の話し合いの場を設け、内容に応じて解決したり、より地域がうまくいくように話し合いの場に出たりしていますので、ちょっと誤解があるのでは。社協職員は、やはり地域に入っていく立場ですし、そういう役割を担っています。</p> <p>もちろん、今後の地域担当職員の中でも、そういうことが起こりうると考えられます。地域の団体間にはデリケートな関係もありますので、そういう事情を十分に把握して、調整役に入っていくことが大事だと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>そうですね。地域担当職員を行政がこれから作っていくのであれば、地域でどんな団体があって、どういう人にきっちり話を通しておかないといけないとか、そういうノウハウは社協のコミュニティワーカーの人の経験と知恵の蓄積はきつ</p>

<p>委員</p>	<p>ちりと使わせていただかないといけないし、それが連携ということになりますね。</p> <p>社協に文句をいう訳ではないですが、一生懸命やっておられて頭が下がります。しかし、ちょっと悪い言葉でいうと、出しゃばりすぎるといことです。どういうことかという、自治会は自治会で福祉部会を作って、たくさんメンバーが出ています。ところが、その人たちが何をしているかという「こうしてください」と言われて使い走りをしているんです。そうじゃなくて、もっと地域の人たちに考えさせて一緒にということをやらないと。考えて企画してこうしようというのは社協がやるわけですよ。だから、今年度から各自治会はそういうことでメンバーを出さない、出たって手伝うだけです。こんな無駄なことはない、やめます、引き揚げます。</p> <p>そうではなく、一緒になってやらないと駄目ですよ。もっと地域から出たメンバーに考えさせなさい。</p>
<p>委員</p>	<p>今、おっしゃっていることは社協職員ではなく、いわゆる地域の動きですよ。社協職員の動きと地域の組織である福祉委員会の動きが、やや混同されています。</p>
<p>会長</p>	<p>地域で特に福祉の専門的な話というのは、これはなかなか、だからこそ社協のコミュニティワーカーの方の必要性がある。だからといって、コミュニティワーカーの方の指示で地域がわっと動くのは、これまた地域の皆さんからも合わないものになってしまう。ただ、それは何のためかという、この地域の10年後のための話ですよ。そこをやっぱり理解して納得して腹に落としやってもらうためには、かなりの話し合いが絶対地域では必要ですし、人と人とで付き合うようになれば、そういう話は多分みんなで作れるようになるのです。</p> <p>だから、そこに到達するまでにどれくらいの時間がかかり、地域に入って行けるか。これは職員の方の資質もあるけれども、「今度の人はこういう人か」と地域で受け入れる土俵の広さ、ある意味「この職員をこの地域で育ててあげよう」というぐらいの気構えで、地域の方はいいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>育てたいですね。そういうことって、わくわくしますね。</p>
<p>委員</p>	<p>社会福祉協議会の基本要綱にあるのは、1番は住民主体の地域福祉活動。この地域分権も、市民主体の地域活動ということを前提に職員がどのように関わっていくのか。職員が前面に出てリーダーシップをとるのではなく、社協職員も含め、ある時は黒子であり、ある部分では前に出たりして、あくまでも市民主体の地域分権、地域活動ということをきっちり押さえていくことが大事です。</p>
<p>会長</p>	<p>そうですね。地域担当職員制度には、社協でコミュニティワーカーの方が苦労さ</p>

	<p>れていることを参考にしながら、少し詳細なマニュアルが必要でしょうか。詳細すぎると公務員の悪い癖でマニュアル通りにしか動かないですが、かといって地域で好きなようにやりなさいといったら公務員の方は困ってしまう。それをどういうふうに地域担当職員という専門職を作っていくか。少し重たいですね。</p> <p>委員がおっしゃるように「地域で職員を育てたい」というような話があると、ますます重い一方で、すごく期待はしたいです。そういうストーリーができれば楽しいなと思います。今、思っていたのは、ベテランと若者の2人のペアで、若者をベテランの職員と地域で育てていく。そんなプログラムとして、地域担当職員のペア制度もあるかなと。好き勝手なことですけど、そんな話があってもいいと思います。</p> <p>残念なのは、地域担当職員は多分ずっとその地域に張り付いているわけではないでしょう。多分、数年で逆に変わらないといけないと思います。それでほかのいろんなセクションに行く。私の知っている事例でも、ある地域で異様に国際交流が盛り上がって、何故かという、実はそこの地域担当職員が前に国際交流をやっていて、そこで得たノウハウでその地域のいろんなことを紹介してしまう訳です。そして、その人は違うところに異動してしまうわけです。そうすると、違うところで国際交流という切り口で地域をまた見ているわけです。地域の人たちはおもしろいねという感じで国際交流を始めるわけです。その後、例えば福祉の人だったら社協と一緒にになって福祉の切り口で地域を見る。</p> <p>専門を持っている人が地域担当職員になると、どうしても自分の得意分野がありますから、そこをどこまで出して良いのかということはずっと悩ましいです。ただ、地域がそれで「いいね」と思ってしまうのならそれでもいいです。そうやって何年か経つと、いろんな職員がいろんな得意分野をぐるぐる地域に伝えていき、それが根付いていったら面白いかなと。国際交流の話を見ていて思いました。</p>
委員	それは、逆に職員を育てるといいう言い方もありますけど、市民が逆に行政に育てられるということですか。
会長	ということもあるでしょうし。
委員	<p>会長に教えていただきたいのですが、川西というのは近隣に比べると結構特殊なまちで、もともと3万ぐらいだったまちが、よそから来た人たちで出来あがってきた住宅都市ということで、よそに比べると観光や文化や産業とかが弱いわけです。観光、文化、産業といったところにあまり重要な意識を持たれていないことが、このまちの特色です。</p> <p>今申しあげたように、川西は住宅都市として育ってきた訳ですが、それだけでいいのか。数にもの言わしているだけでいいのか。3つの分野を各地域は捨てておいていいのか気になっています。果たして、各地域に川西に足りないものを委ねたことで、まち全体は良くなっていくのですか。文化、観光、産業が後回しになってい</p>

<p>会長</p>	<p>るように思う訳です。</p> <p>後回しになっているというよりも、観光とか文化は地域に住んでいる人それぞれが担うものではありませんよ。物産の話であるとかそういうものを生かしていこうという動きが、各地域で強まると思います。「やっぱりわが地域はイチジクだね」ということになれば、イチジクを何とかしようかと話は出てくると思いますし、地域の資源としてもう一度きっちり見直していこうとすることでしょ。そうすると川西の北と南で活かしていこうという話に次は広がるだろうし、そうやって初めて川西ブランドとして育てていこうかという話も出てくるでしょう。ただ、川西はかなり住宅団地になっていますから難しい部分があると思います。</p> <p>以前にお話ししたかもしれませんが、伊賀市では「地域まちづくり計画」というものを、小学校区ごとに住民自治協議会で作りました。もう7年前です。その中で、とある山の中の1つの小学校区ですけど、そこで最初に計画を作るときに、みんなで地域の強み弱みを歩きながら発見しましょうと、まち歩きをやりました。そしたら、その地域には「えみちゃん」という世話焼きのおばちゃんが有名人としていたわけです。離島の漁師町からその農村にお嫁に来た人で、この人を地域資源にしちゃえということになりました。この人がやっている魚の産直を地域でやっていこう、地域で盛り上げてしまおうとなつて、無謀にも50万円の予算を使って魚屋さんを作りました。</p> <p>そうすると、最初の1年は案の定、地域では全然流行りませんでした。けれども、その補助金を使ったことによって説明責任が生じたので、えみちゃんが次の年に僕ら審査員の前で「残念ながら助成金もらって1年やってみましたが、あまりうまくいきませんでした」と報告されました。そしたら、街の中の住民自治協議会の会長から「今度はうちの地域でやってください。ちょうど、魚屋がいなくなつてみんな魚屋が欲しいと言っていた」あるいは別の団地の住民自治協議会の会長は「うちで移動販売をしてくれないか」というような、市役所関係なしで、住民自治協議会同士でやりとりが出来ました。</p> <p>それで、えみちゃんは地元の魚屋もやりますけれど、そこでの稼ぎよりもむしろ街中の魚屋さんで売れるものと、移動販売で高齢化している住宅団地で売れるもので品物を回していて、それが縁になって伊賀市の子どもが夏になると島に海水浴とか漁業体験で行き、そして島の子供たちが春と秋は農村体験で来るという農村漁村連携のモデルケースとして、去年、農林水産省の事例集に載りました。これなんかまさに「瓢箪から駒」で、最初に見たときは地域まちづくり計画に、えみちゃんという個人を資源として挙げていいのかと考えましたけれど、そういう何が起こるか分からないという地域のおもしろさ、そしてこれは行政の職員が手を入れたら絶対出てこなかったはず。それが地域の皆さんにお任せすることによって地域がこういうふうにつながっていくことだなあと思ったことです。</p> <p>今の話は、農村漁村の話ですから違つにしても、川西市という地域の最大の問題</p>
-----------	---

	<p>は、これからの世代交代をいかにスムーズにしていくかです。若い人たちが、他のたくさんの選択肢があるなかで川西市を選ばなくてはならないです。川西市は選ばれなくてははいけません。そのための魅力を今いる人たちが磨いていく話ですから、その中には世話好きのえみちゃんのような人も地域の資源に位置づけてもいいです。世話好きの人が沢山いるということがあってもいいし、それを僕は期待したいです。</p> <p>量があれば一定の質は保てるのです。だから、今は量がどんどん劣化しているかといえば劣化している。今、次の世代交代に向けてもう一度、地域の資源としての良好な住環境ストックの話や、絶えかけている産業や、昔ながらの文化など、そういうものをもう1度、次の世代の住民が楽しいまちだと思えるように磨くようなネタを、小さな地域でこそ、まずは皆さんが磨かなければ駄目かなと思います。そういう意味でも、地域分権というのは地域の皆さんにお任せする怖さ半分、けれども期待するところがあります。</p>
委員	<p>でも、地域別懇談会でもかなり出ていますよ。第1段階としてはすごく出ていますので、第2段階で先生がおっしゃるような、本当に素晴らしいものが出てくるかもしれない。第1段階としては、これだけ出たら素晴らしいと思います。</p>
会長	<p>それで「横同士で繋がり始めると楽しいな」ということを期待していますし、そういう組織にしたいなと思います。</p>
委員	<p>住民もそうですし、商工会もそうですし、もう少しみんなが歩み寄って地域を知ってもらわないと。</p>
委員	<p>商工会も色々な方がおられ、1,500事業所がありますから、1つのベクトルに向かって一枚岩でいきましょうという事になっても、なかなかそうならない事があるのです。でも確かに、そういう方向性で活動しているつもりですし、うまく皆さんと共存共栄できたらいいと思います。</p>
会長	<p>そうです。それが結局、回りまわって各事業所の利益になっていくわけです。</p>
委員	<p>川西まつりの前夜祭を去年も考えていただいた主導者ですから、そういう思いはすごく素晴らしいもので、あれをもう少しアピールしたかったということはあると思います。</p>
委員	<p>川西市をベットタウンにしてしまったのは行政の責任があります。もともと川西市というところは農業立国の土地です。ものすごく生産力が多いです。これは川西市だけでなく兵庫県全体のことで。上から下まで海で繋がっていて海からの生</p>

	<p>産力があり、大きな土地からの生産力が非常にある。これを活用することをさぼってきたのです。</p> <p>イチジクワインにしても、10年たって未だに年間5千本です。イチジクワインを1万本でも2万本でも作りなさい。余ったら置いといた方がいいです。置いといてもビンテージが成り立たないのなら、置いといたらうまくなるイチジクワインを何故つからないのか。中途半端で努力が足りないのです。これはイチジクだけではないです。全国で一番裕福な土地を持っているのは兵庫です。そういうお宝をもっているのです。ですから、人を増やす前にモノを作りなさい。その音頭を商工会にも取っていただきたいです。</p>
会長	<p>商工会に対する様々な期待が今日は寄せられていますね。</p> <p>ところで、高木委員、地域分権制度について、いろいろ身近で権限や財源を決めるという点はいかがでしょう。</p>
委員	<p>私は、それはとても重要なものになっていくと思いますね。今、清和台は住宅がたくさん空いているのです。だからそれを考えていかないと、その持ち主だけで考えても、絶対それは出来ないとします。いろんなことで住民同士が話し合いをしていかないと過疎化になっていくと思います。そうなったときに自治会やコミュニティがいろんなことをやっても人が集まってきません。人を集めるためには、もっと住みやすい場を作って、若い人たちから育て上げる場所がほしい。そういう意見はたくさんあると思うのです。そういうものを吸い上げていくのは、地域分権の1つだと思います。</p>
会長	<p>とっかかりですね。具体的に事業化していくということですよ。</p> <p>委員、地域分権についていかがでしょう。</p>
委員	<p>2つほどあります。地域担当職員制度に期待したいことについて、個人としてイメージするものは、単なる地域と行政のパイプ役ではないことはもちろん、「地域と行政ともに」「歩みよる」という言葉のイメージがあります。互いに歩み寄らないといけないと思いますが、担当職員の方には、地域の課題が報告書という形で出てきていますが、これを読むとか報告を聞くということではなくて、実際に目で見るとか体験をするということもお願いしたいと思います。</p> <p>例えば、交通の便が悪い、野犬が多い、子育てする場所がないことを何とかしたいと思うよりも、実際に行ってみると、川にはホテルがいっぱいいることに気づきます。ホテルを見ているとすごく綺麗で、それをどうにか保護して観光資源に出来ないかというような発想が出てくるかもしれません。そんな形で1年間の行事などを一緒に企画、体験してみる。一緒にできることはやってみる。行政と地域の人たちがお互いに勉強しあって、地域の課題を解決できるような関係が出来ればいいの</p>

	<p>かなと思っています。</p> <p>地域担当職員のペア制度という話が出ていましたけれど、私はいいなと思いました。地域と共に歩んできた職員の方が一人だとすると、3年後にぱっと変わってしまうと、また一からなのかと住民は思いますが、ペアにして1年半ごとで交代すると、市の方も市の中で引継ぎができるし、住民の方も引き続き前に歩むことができる。それが地域担当職員制度に期待するところです。</p> <p>もう1つは、中間答申にプラスアルファする位置づけで、地域分権制度の検討に向けてということを書いた話がありました。分権制度自体を検討するにあたっての論点は申し分のないものでしたが、何も知らない素人の一自治会員にとっては、地域分権制度が出来て自ら参画したいと思えるには、例えば「地域カルテ」「ラウンドテーブル」など分からないことを分かりやすくしていく必要があります。</p> <p>制度自体の運用という次の段階になるかもしれないですが、参画と協働や地域分権制度について、広報誌を使ってPRすることはもちろん、実際に市民の皆さんに向けて勉強できるような機会が欲しいです。言葉の使い方とか言葉の認識のずれがあると、全然違う方向にいつてしまいます。</p> <p>例えば、「地域に権限と財源が来たとき自分たちはこういう手段で前に進んでいけば自分の住むまちが良くなっていく」という方法論をみんなで勉強する機会を設けていただければ良いのかなと思います。</p> <p>NPOについては、様々な活動がなされていますが、例えば、けやき坂であれば、朝市をNPOの方の協力で開催しています。どんな団体があるのかは、文章で見れば分かることもありますが、PRをするイベントを設けて、社協、事業主、コミュニティ、自治会などみんなが出てプレゼンをして、自分たちのまちに必要なNPOや事業者のノウハウなどを全員が分かるような企画を、この地域分権制度推進にあたって実施して欲しいなと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>大変貴重な意見をいただきました。どうでしょうか、NPO法人の立場では。</p>
<p>市民活動センター</p>	<p>委員がおっしゃるように、まさに人は資源であり、NPO 団体も資源ですし、NPO 法人をはじめ沢山の団体が市民活動団体として市民活動センターに登録しています。その方たちが、例えば大プレゼン大会を商工会がされるとすれば市民活動団体が一緒に参加させてもらうなど、ジャンルを分けずにマッチングを行いお互いに何が出来るかを拾えるようなイベントができれば面白いなと思います。</p> <p>そこから協働事業や新しい可能性が生まれ、本当の連携、協働の事業になっていくのではないのでしょうか。その時には、やはりルールが必要だと思います。市民活動団体や行政と一緒にやるとき、あるいは地域の中でやるときに、そういうルールがある程度できている方がスムーズだと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>それはある程度、オール川西としての最低限のルールがあって、そのあとは小学</p>

	<p>校区で事業所と組むとき、あるいは小学校区ごとで何かやろうというときのルールは、オール川西の基本的なルールの上に立ってそれぞれ協定を結ぶといった仕組みを作っておいたらいいということですね。どんな協定にするかは話し合いの結果です。そういう協定を交わしながらやりましょうということ。それも1つ必要なことですね。</p> <p>あまり時間がありませんが、この際特にということがあれば発言をお願いします。</p>
委員	<p>2つ申しあげたい。1つは情報の共有という事がいろいろ出てきました。確かにそれは大事なことです。例えば、私の地域も空き巣が多いです。私が空き巣に入られたら「こんな事をしていたために、こんな被害に遭いました」と自治会の場で私だったら皆さんに話をしたい。しかし、被害に遭った人は話をしてくれといっても出来ないですね。</p> <p>ところが、けしからんのは警察が全然情報を流さないことです。手口を警察は秘密にして言わないです。そこで、行政の方をお願いしたい。警察をもっと教育してほしい。何のための警察か。一方で「守れ守れ」と言って、被害に遭ったら「なぜ被害にあったか」を知らせないでは守れないです。</p> <p>もう1つは地域担当職員制度。1番心配しているのは地域に出せる職員がいるかということです。これは絶対に対応できないですよ。ですから、やりくりしながら3年務めることが望ましいが2年で我慢させるとか、助走をうまくやるとか、とにかく地域に潜り込んで働きながら勉強させるという方法以外はありません。あれもこれもする余裕が職員にはありません。</p>
委員	<p>今の空き巣の件ですが、地域には防犯協会があります。私たちはそこに所属して活動します。指導する人もいます。講演を頼んだらすぐやってくれます。手口はどうだとか、警察上がりの人なので良くご存知です。</p>
委員	<p>それは建前、サンプル的な話です。詳しくはないです。何処で誰がということが大事です。</p>
委員	<p>さっきのペアの話ですが、OBを使ったらどうかなと思います。1人はOBで1人は職員などどうでしょう。でも、あんまり来られると嫌ですけど、能力のある人はどんどん使っていただきたいということで。</p>
会長	<p>それはいいと思います。僕もよく職員研修で「どうせみなさん定年になったら地域でこき使われるのだったら、こき使われやすいように地域を変えてみたらどうですか」という言い方をしています。公務員の方はリタイアされたら、ある意味地域ではいろんな活動をしてくれるだろうと期待されている部分があるので。ただ公務員OBはあまりやりたがらない。それは地域といつも一線を画しながら生きてき</p>

	<p>ましたから。それは、ものすごくもったいないことだと思います。だったら、若い時から地域で鍛えられてほしいと思うし、そのために市役所に入ったのではないのといつも思いますけど、「私は人付き合いが嫌いですから市役所に入りました」という方もいますから。そういう人は放っておいたとしても、職員の方で何かやろうという人は積極的に地域の方が見守り育てるように、懐深く受け止めることがあったらおもしろいなと思います。ついつい対決姿勢になってしまうことが多いので。</p>
委員	<p>住民も少し変わっていかないと。仲間だという意識を持って。</p>
会長	<p>同じ川西の地域を作っている1つの主体としての行政だということです。</p>
委員	<p>論点8「地域自治における活動拠点」についてですが、これは非常に地区福祉委員会、地域福祉活動の拠点と関連があります。もちろん住民の合意の中で出てくる話ですが、地域拠点を持っていない地区では、社協を通じて行政に福祉拠点の確保やいろんな支援をお願いしていき、地域福祉計画でも福祉拠点の確保が言われている中で、地域福祉拠点と地域活動拠点との連携についても、答申に反映していただけたらと思います。</p>
委員	<p>例の一井サロンですが、私自身も反省しているのですが、とてもいい拠点が自治会館にできたのです。ところが問題は、近所の方がそこに人が集まってきたらうるさいといって、住民エゴを出したのです。そんなことやるなら体張って反対するという人も出てくるのです。私はそこまで言ったらいかんということは言うのですが、どうしても近所の方にしたら毎日朝から晩まで迷惑です。そういうエゴを許したら、せっかくできた拠点なのに、全然利用者が来なくなった。運営の仕方が間違っているのです。近所の方がそんなことを言ったら叱りとばさないといけない。もったいないと思います。市民教育が必要です。</p>
会長	<p>エゴの話というのはすごく難しく、どういうふうに解決すべきか、なかなか妙案はありませんけどね。やっぱりそういう事もきちり話しあうしかないですけどね。子どもの声すら騒音ととる人も、活気があっていいなととる人もいますし、こればかりは感じ方の世界ですね。何とも言いようがないですが、まずは顔を突き合わせて話すというところからでしょう。知っている人が話している声と全然知らない人が話している声をだったら、全然知らない人の声は騒音に聞こえるでしょう。基本的には話し合う、対話するということが大事だと思います。</p>
委員	<p>100人なら、100人とも意見をもとめる事は難しいです。だから、決めるときはやはり、反対の方もいらっしゃるということは事実です。</p>

<p>会長</p>	<p>常に反対の方がいるということは前提です。ただ、その人の意見というのも絶対に言ってもらわないといけません。もの言わずに決めてしまうのではなくて、やっぱりいろんな人に意見を言ってもらって、ただ、こういう線でまとめていきましょうという合意形成の手続きは、あまり日本人は得意ではないけれど、きちり話せるような場所というのが必要です。</p> <p>いよいよ次回は、今日いただいた議論も含めて答申案についての議論になります。今日いただいたご意見を踏まえて、答申案として事前に送付をいただいて、目を通していただいて意見をいただく。そして、答申案として完成させていきたいなと思います</p> <p style="text-align: center;">＜日程調整 次回は9月4日午後 6 時からに決定＞</p>
<p>会長</p>	<p>以上で、本日の推進会議を終わります。お疲れ様でした。</p>